

音楽鑑賞に配慮した補聴器の有効性について

人間福祉学科 生涯発達支援系 上澤梨紗

本研究では、語音聴取に重点がおかれている補聴器の中で、音楽専用モード、音楽自動処理モードを搭載した機種を対象に疑似難聴者による音質に注目した主観評価を行い、音楽処理の有効性を検証することを目的とした。その結果、使用した補聴器 4 機種全てで音楽鑑賞における有効性は認められなかったが、各々適している音楽ジャンルが明らかになった。補聴器 A の自動処理モードはムードミュージックで評価が高く、補聴器 B の自動処理モードと補聴器 C の音声モードでは沖縄民謡で評価が高かったものの、これら 3 機種共にクラシックに対する評価は低いことが分かった。また、補聴器 D の音楽専用モードについてはジャンルを問わず評価が高かった。しかし、本研究で得られた評価は、あくまで成人健聴者による評価であるため、必ずしも全ての難聴者に適合できるものではなく、これらの結果を基に難聴者個々の聞こえの状態やニーズに合った補聴器選びが必要である。